

煙突のプランニング

薪ストーブの無駄のない暖房効率の確保
安全性やメンテナンスの手間などを大きく左右する煙突は
ストーブ選びと同様に重要な要素です。
ストーブを設置する環境で部材の種類はさまざまですが
最低限知っておいてほしい
煙突プランニングのポイントを挙げてみました。

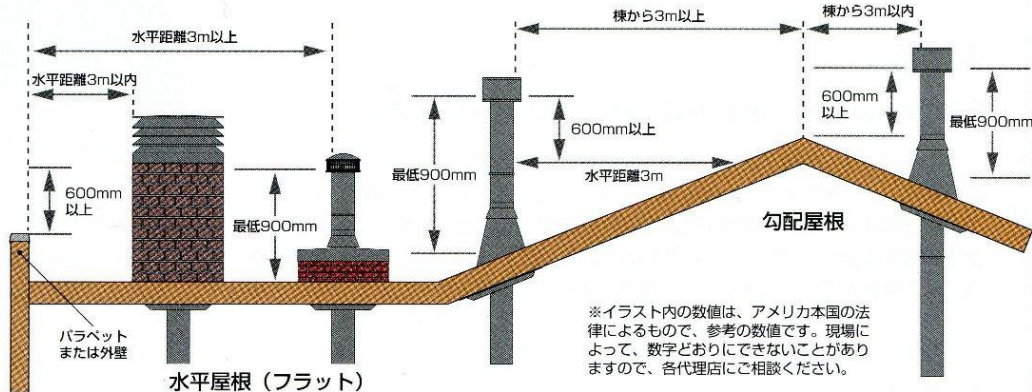
防火上必要な 煙突の高さ

屋外への煙突突き出しの高さは、防火上有
効な距離を設けなければなりません。煙突は
屋根を貫通する部分から90cm以上高くし、
さらに水平に測った周囲3m以内の障害物よ
りも60cm以上高くしなければなりません。

理想の排気を促す 煙突の役割

薪ストーブの燃焼で生じた
ガスを排出させるために、煙
突は不可欠。同時に、効率の
良い燃焼を得るための重要な
要素です。まっすぐな煙突や
曲がった煙突、長い短いなど
さまざまな設置方法が検討で
きますが、それぞれ排気の効
率に大きな差が生じます。薪
ストーブの排気はモーターに
よるファンなどに促されるも
のではありませんので、自然
排気的作用(原理)を理解する
ことがポイントです。

法令や地域の火災予防条例、
地域の自然災害等に詳しく、
煙突設置の経験を持つ代理店
によく相談することをおすす
めします。



効率よい排気を促す煙突

スムーズに空気を入れ替えるには「ドラフト」
(P52) を効率よくすることを考えましょう。そ
れには、最低5m以上煙突の高さが必要になり、
煙突がまっすぐな状態で設置されていることが理
想的です。安全性確保のため、必ず断熱二重煙突
を使用してください。二重煙突の断熱材により煙
突内が保温され、排気もスムーズになります。

■標高で検討が必要な煙突の高さ (アンコール、直径150mmの場合)

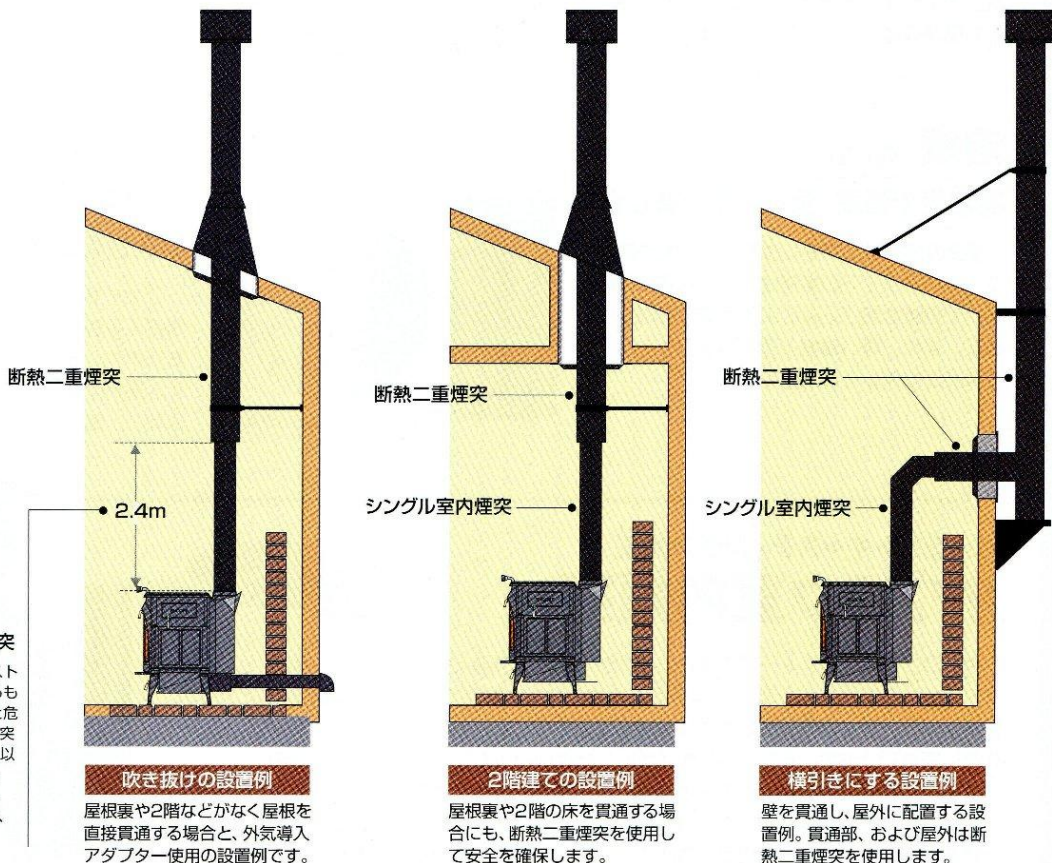
標 高	最低煙突高
0 m	5m以上
500m	5.2m以上
1000m	6.0m以上
1500m	6.7m以上
2000m	7.3m以上

3つの代表的な 設置スタイル

煙突の設置方法には、屋根
を貫通させる場合と壁を貫通
させる方法があります。また、
屋根を貫通する場合は吹き抜
けなのか、二階建て(ロフト)
なのか、などで施工方法が異
なります。まずは代表的な3
つのプランニングを知ってお
きましょう。

シングル室内煙突

室内煙突は断熱二重煙突とストーブを接続する際に使用するもので、必要以上に使用すると危険です。室内(シングル)煙突は高さ約2.4mまでに、それ以上は断熱二重煙突にします。
※2.4mはメーカーの推奨値。現場により異なりますので、代理店にお尋ねください。



水の侵入や煙突の倒壊を防ぐ

通常の雨水の侵入を防ぐのはもちろん、台風や豪雪時の想定も必要です。雨仕舞いの種類や特徴を理解し、地域の気象特性から降水量、風圧等をよく検討して確実に水の侵入を防ぎましょう。また地震や強風、積雪から煙突の倒壊を防ぐために、煙突の荷重、風圧、雪の重さ、地震の揺れなどを想定して確実に固定することが大切です。

(※ここで紹介するのは商品の一部です。)

